平成２２年度第２回講演会　グループディスカッション

グループＡ

- 講演を聞いたことで内容については理解できたが、一人ひとりの個々の背景を踏まえた対応となると、不安が残る
- 犯罪の背景に発達障害が関連していることは知っていたが、具体的にどのように関わっているのかについて知ることができたと共に、とても深いなと感じた。
- 若者の集団を見ていると、何人か気になる学生がいて、その背景には発達障害の考え方が関わっているのかも・・・と考えるヒントになった
- 診断がついても薬を飲めば治る、手術をすれば治る、ものではないので、私達がどう関わるかが鍵となると感じた。
- 行動のもつ意味を理解することの大切さ、理解するための知識の大切さ
- 人との関わりはたった１人でも愛着関係が結ばれる深い関係を持てることが大切と感じた。←　多数の大人との表面的で一貫性を欠いた関わりではなく
- 育ち直し、育て直しの難しさ・・・長期的な関わり・・・思春期、青年期になった時にできあがっている習慣やプライド（親も子も）に訴えることの難しさ
- サポートのあるなしが親として健全な子育てができるかどうかに関わる
- 他者へ自分を表現することが苦手な子の話を聞く時に、自分なりに言葉を与えてあげることで「自分の今感じていることはこう言えるんだ」とほっとした様子だった。
- 自己表現のサポートがしてあげられる
- 他者との関係を結ぶために、自分のことを共通言語で説明する、といった国語力の育成の大切さを感じた。
- 基本的信頼の確立が大切であることがわかっているのだから、母親になる人へのサポートを手厚くすることが一つ、非常に大事なこと

グループＢ

- 子どもだけではない。そういう人が増えている。そういう人達が子どもを産んでいる。
- 環境が非常に大きい。大人（親）がモデルを示していかなければならない。
- 全体的には言えないが、中学生、あるいはそれ以前の発達課題を積み残して大学生になってきている。それぞれのところで支援できればいいのではないか。
- どこにも見えてこない人達、分からないでいる。
- 小学校で気づいてあげることという風に次につなげていけばよいのか。
- ボーダーラインの人達のスクリーニングしていくか
- 大学に勤務してみると、学生についての引き継ぎがない。（小→中であるような）
- 生きやすくしていくための診断
- 小中大社会一般・・・人の発達を継続的に見る

・　本人がどう思っているかという視点
・　発達障害と診断がつくと支援が受け入れやすい
・　告知をしないことも医療者として大事ではないか
・　過去は変えられない
・　私達が生き方を考えるとき
・　リスクのある子達にどう関わるか
・　真剣に見る、視る　・・何ができるか
・　発達障害の概念がない時代からやってきた
・　ソースは自分達の中にある
・　父子家庭の方が厳しいのではないか
・　求められなくても積極的アプローチ必要ではないか
・　ソーシャルネットワーク　親たちを孤立させない
・　愛着の大切さ・環境の大切さは分かっている　それをどうするか語りたい
・　何ができるか
・　発達障害と発達の障害と発達障害パターンと発達障害様の現状　狭い意味と広い意味
・　世の中に一人歩きしている発達障害という言葉の使い方に吟味していかなければならないのではないか

グループＣ
○　非行、不登校をどう解決していくかを担当
・　担任が発達障害を理解できず、クラス崩壊。学校とどのように話していくか。
・　発達障害の子どもと学級全体の関係
○　子どもが子どもを産んでいる
・　生活感が少ないままに出産、ささえる祖父母もサポート力に欠ける
・　エリクソンの発達障害での基本が本人・周囲も達成されていない。その教育から行わなければならない
○　離婚等
・　子どもに罪はない、どう環境を変えていけばよいか
・　学生との関わりで、一人ひとりの言葉を大切に聞いていかなければならない
○　養育者
・　「母親」「父親」を強調しすぎてはいけない。個々になりすぎず、その子に関わる人達に目を向けていく
・　思春期に関わっていると子どもの頃の影響が大きい
・　基本に戻り、その穴を埋めてからでないと発達が難しい
○　リスクのある子ども達にどのタイミングでどう関わればよいか
・　広いネットワークの中で育てていく　時間はかかるが

・　「子どもは必ず成長する存在である」という点を持って関わる
・　公民館等で学習会等を開いて、学校でも勉強会をしているが、子どもを理解できない
・　教員に勉強してもらう必要性がある

グループD
・　愛着障害　社会的
・　学校でうまく関われない子を相手にしている
・　家庭内で何かありそうな人にどう関わればいいか日々悩んでいる
　どこからきっかけづくりをすればいいか、待ちながら過ごすことが多い
・　生まれる前からお母さんへお腹の中に話しかけてね（愛着形成）と伝えている
　助産師として愛着形成を大切にしている
・　新聞の見方を変えなければならないと思った。生まれてくるお母さんや赤ちゃんを大切にしなければと思った。
・　いいしがらみがあるって良いこと　部活や友人
・　問題がある家庭は頼れる場所がない
・　学校ではグレーゾーンの子が多い。どっちもあって今がある。
・　親になった人がよく分からないので（どう声をかけていいか）口を出したくなる
・　どの分野にも学びが必要。例えば転んでもどう声をかけたらいいか分からないで、おろおろしている。
・　虐待がある場合、どう学校が入ればいいか。どういう切り口で入ればいいか。
・　子は親の言うことを聞くが、親にはなかなかどう話をすればいいか。
・　子が学校に来ているうちはいいが、こもっていたりすると難しい。家庭では学校にはマイナスに見られたくない。子を見ているかといえばそうでもないようだ。
・　発達の気になる所を見てもらえる場所が少ない。（療育センターは数ヶ月待ちらしい）
・　各教育事務所内に特別支援教育コーディネーターが配置されているが、あまり知られていない。
・　可能であれば病院で診断をもらってほしいが、保護者に伝えるのが難しい場合がある。
・　信頼できる場所があれば相談しやすいと思われる。
・　高校中退してひきこもりになっている人への関わり方が課題
・　ひきこもりがあっても行政への相談は何年も経過してからが多い
・　周囲も辛抱強く関わりが求められる

グループE
・　赤ちゃんとお母さんのこと　ということでモロ！だった
・　ケータイ、テレビから離れられない今のお母さん
・　なぜダメなのかを言えなかったが、今日の講座で理解できた。母と子の関係がとてもと

ても大切！

- 当たり前のことが難しくなってきたの？
- 大人モデル＝安全基地
- 愛着形成　―　母からではもう間に合わない実態があります
- ケータイ、テレビが母親の安心にもなっているので、一概に責められません。
- 祖母、おば、近所のおっかないおばさんも必要
- 虐待を止める時の（気分を変える時の）ケータイでありテレビであったりする。
- ２４時間母はツライよ
- ＳＯＳを出せない、出すところが分からない
- 実母との関係
- 問題が山積み　社会が関わることが今は必要だ
- 育てられない親もいる

以上です。
ありがとうございました。